ホームページ http://www.shinjuku-shinbun.co.jp

週刊 新宿新聞 THE SHINJUKU SHINBUN

4月30日 2015年（木曜日）（第1950号）

社章

発行所 株式会社新宿区新聞社 編集・発行人 喜田 勇 新宿区西新宿7－1－25 ワコーレ新宿第2ビル

購読料6ヵ月4,000円、毎月5の日発行、創刊60周年 ☎3369―6195 FAX3369―0759 （昭和32年12月4日第3種郵便物認可）

主なニュース

❷面 新宿区議選・吉住（栄）氏が5000票台でトップ
❸面 激戦勝抜いた！新宿区議の喜びの声
❹❺面 東商新宿支部・地域経済の活性化
❼面 地域安全に取り組む新宿の警備業界
❽面 渋谷区長選は長谷部氏が勝利！

新宿は炎上!! 外国人観光客

免税店、中古ブランド店、ホテル宿泊客

外国人が列をなす新宿区役所前のカプセルホテル

免税品目が化粧品・食品まで拡充された昨年10月以降、中国客の"爆買い"に支えられ百貨店をはじめとする新宿の免税売上は倍増。伊勢丹新宿本店では全体の店舗売上に占める免税売上が1割に達した。東口の新宿三丁目ではこの4月だけで、外国人観光客をターゲットにした免税・中古ブランド店が2店オープン。ホテルもいまやカプセルホテルまで外国人観光客獲得に力を入れ、空前の特需に沸いている（関連記事5面）。

誘致合戦

新宿グレイスリー

"宇宙船"と外国人に評判 ゴジラルーム8月まで満室

区役所前のカプセルホテル

歌舞伎町区役所通り沿いにある「新宿区役所前カプセルホテル」（4百36室）は宿泊客の6割が外国人だ。

おかげで日本人を含めた3月の客室利用率はカプセルホテルとしては異例の9割超（女性専用フロアは93%）に達した。以前はカプセルホテルといえば終電を逃した男性会社員が使うものだった。それでは週末に比べ、平日の稼働率が低くなると、女性客・海外客の獲得に動いたのが2年前。

一昨年7月に、カプセルホテルとしては先駆けとなる女性専用フロア（8階、92室）を設置。さらに海外予約サイトに情報を掲載し始めた。その後は2千円台の格安料金と、カプセルの形が宇宙船に似ていると欧米客から口コミで広がった。最近ではアジア団体客も多く訪れている。同ホテルでは英語を話せる専用スタッフ4、5人が対応にあたっている。

▼都市ホテルの外国人客比率は上昇

京王プラザホテルは毎年、百ヵ国以上の外国人客が宿泊する。外国人観光客比率は13年度の64・1%から14年度は70・9%（前年90・9%）と落ち込んだ。それでも外国人客については増加。外国人客比率は前年の10ポイント増の71・5%に達した。特に中国本土客の伸びが顕著で「3月は前年に比べ22%の伸びを示した」という。

▼グレイスリーは富裕層獲得し外国人比率7割へ

新宿を訪れる外国人観光客獲得に向け、藤田観光が24日、歌舞伎町・東宝ビルにオープンさせたのが新宿ホテルグレイスリー（9百70室）だ。

部屋の間取りは西新宿のワシントンに比べ3割程度広めでその分、宿泊料金も高めとなる。

ツアー客ではなく個人で訪れる富裕外国人客を取り込むことで「外国人観光客比率7割」をめざすという。

新宿グレイスリーホテル最上階（30階）の「ゴジラルーム」は予約で8月まで埋まる

ドン・キホーテ

新宿三丁目 中古ブランド2店出店 免税売上は6倍に

免税対象品目が化粧品・食品まで拡大された昨年10月以降、免税対応の店舗はいずれも好調だ。「免税売上が前年の6倍増の状況が続いている」というのが歌舞伎町のディスカウントストア「ドン・キホーテ」新宿東口店。同店全体の売り上げに占める免税売上は21・4%（昨年10～12月）にも達した。

外国人観光客が押し寄せる東口の繁華街・新宿三丁目では、この4月、免税対応の中古ブランド店が2店オープンした。

モア2番街の並びに1日、オープンしたのが一風騎士本店（25坪）だ。一風騎士は創業10年、12年に新宿東口に1号店となる新宿店をオープン。5坪程度の狭い店舗ながら外国人観光客が多く訪れ、売り上げの6～7割が外国人客で占めている。外国人客の更なる取り込みと、買い取りにも対応できる大型店舗をと、今回の出店につながった。オープン後の客足は好調だ。中国客が断トツに多く、それに次ぐのがタイ客・台湾客。中国客はリーズナブルな商品を自分用に購入する人がいる一方で、高額なローレックスの時計をおみやげ用に3、4個買う購入金額百万円以上の爆買い層まで幅広い。一方で日本人客からの買い取りはまだまだ。

「買い取り額は他社よりも高い」と今後に期待する。

勝っても万歳を控えた吉住栄郎氏（中央右）

新宿区議選

5千票台での批判警戒？ 吉住氏は勝っても笑顔見せず

新宿区議選の選挙当日（4月26日）、午後11時20分の開票速報で5千票台に乗せ、トップを確定させたのが自民党の吉住栄郎氏だ。だが同じ自民の同志を気遣ってか「まだ田所、渡辺さんが台湾ラインの千4百票台で競っている。とても万歳などできません」と神妙な顔つき。5千票という空前の獲得票で取り過ぎ批判、一人勝ち批判を警戒してか？喜びの表情を押し隠していた。

「他候補の地盤には宣伝カーも入れず、私も運動員も歯がゆい思いだった」「活動量が減っていたので不安だった」「四谷の支持票は今回もあった。目立たぬ活動に徹していたのですが…」と自民の小倉氏への気配りも忘れない。

千票"減"も想定内？ 下村氏は他候補の心配も

前回トップ当選の自民党の下村治生氏は、今回は4年前の選挙より千21票減と大きく減らし、3千3百86票の2位に甘んじた。

ただ前回選挙では4千4百7票を獲得し、票を取り過ぎと言われただけに「新人（渡辺氏）らに"地盤"を譲り渡した部分もあるので」とここは想定内という。むしろ当確が出た午後11時20分の段階では、苦戦を強いられている自民候補を心配していた。

開票速報状況を自ら聞き、その状況を選挙事務所に集っていた支援者に丁寧に伝える姿は、まさに"気配りの下村"といえるものだった。

「3,386票」の勝利で万歳する下村氏（中央左）

秒読み

▼新聞記事が選挙運動に一役買う、あるいは逆に利用されることがある。ある候補にとってマイナスと思われる記事も、"プラス"になることがある▼例えば「一人勝ちは良くない」「勝ち過ぎは良くない」と、前回のトップ当選者に警鐘を鳴らす記事があった。「地盤の一部を新人候補に譲った」と表明したので、逆にその候補の"信用""信頼度"を高める結果となった。また別の候補はその考え方を忠実に守り、他陣営の地盤には宣伝カーを一歩も入れなかった。その"律儀さ"が買われて思わぬ"大量得票"をもたらした▼またある女性候補は子育てが忙しく、選挙の事前ポスターはほぼ貼れなかった。おまけに離党したので政党の地盤票は別の候補に割り当てられた。この窮地を見かねた昔の仲間が熱烈に支え中位当選した▼別の女性候補は選挙運動のイロハ、「駅立ち」、「地元回り」を省略、「自民党公認の唯一の女性候補」とだけ、宣伝カーで連呼して、2千5百票で第5位当選した。これといった選挙運動をしなくとも若くて美人？なら投票してくれる。そんな"記録"が新宿には過去2度もあった▼汗をかいて足で稼ぐ、昔ながらの「地盤割り選挙」と現代の「無党派選挙」。2つが併存する、時代は「過渡期」なのだ。